

## Q 自治体でしかできない巡回バス運営を。

### A 巡回バスの実施には解消すべき諸問題が依然多い。

田原議員

Q 町内巡回バス構想は、その後どこまで進んでいるのか。

広電バスの熊野線（海田経由）の便数は、片道午前23便、午後20便の計43便あるが、阿戸線は12便（1時間に1便）しかない。まさに「交通辺地」である。

小泉首相は「民間でできることは民間で」と言っているが、バスという公共交通機関でありながら、民間営利企業では住民の不便さに応えられていない。

地方自治体の大事な役割という立場にたって、巡回バスの実現を図って欲しい。

平本町長・石井企画課長

Q 必要性は十分に認識しているが、町民の巡回バスの利用頻度などを考えると、マイクロバスやゴン車などでの実施も視野に入れて考える必要がある。長年の検討課題ではあるが、今後も最適な方法について模索していく。（平本町長）

Q 路線バスの阿戸系統については、利用者の減少にともなって便数も減っていることは承知している。このためバス会社には乗り継ぎがスムーズに行えるように申し入れているところである。巡回バスについては、これまでも答弁してきたとおり道路幅や運行経費など多くの問題がある。これらの諸問題に向かって今後も様々な検討を行う必要がある。（石井企画課長）



## Q 住居表示の早急な整備を。

### A 住所変更には住民への影響や負担は避けられないが…。

馬上議員

Q 平成の大合併で広島県の86市町村が3月末には29市町になると聞いている。今回の合併を避けられた当局に敬意を表するところである。安芸郡陸地四町は合併を避けられたが、熊野町だけが住居表示の整備が遅れている。前回の質問では、基盤整備ができてから行うとの答弁であったが、住居表示は都市計画決定をされた時からの課題だと考えている。なぜ熊野町だけが遅れているのか。

石井企画課長

Q 住居表示については緊急時の現地確認や個人の実施している地区と、していない地区が混在することでの支障、住所変更に伴う住民への負担などの問題も生じてくる。今後も関係課及び財政当局との協議を詰めていき少しでも早い時期に着手できるようにしたいが、今暫く時間的猶予をいただきたい。

